



出張報告書

令和 5年 2月 3日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 市民グリーンクラブ

代表者氏名 都築 徳昭  
 出張者氏名 明見 孝一郎・都築 徳昭  
 須田 和・綿瀬 和人  
 宮城 亜幅

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和5年1月23日から令和5年1月25日まで

2 結果の概要

用務先  唐津市 佐賀市 広島市	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付)  1 ポートレースからつについて 2 NPO法人スチューデントサポートフェイスについて 3 情報セキュリティについて
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考

3 届出事項の変更等  なし  あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 清 算

<input checked="" type="checkbox"/> 精算額は、令和4年12月20日届け出た額 ( 328,300円 ) と同一額である。 <input type="checkbox"/> 届出事項の変更等により、別途清算する。(精算額は裏面に記載)
---

## 出張調査報告書

尼崎市議会 市民グリーンクラブ  
都築 徳昭、宮城 亜輻  
明見孝一郎、綿瀬 和人  
須田 和

日 時 2022年1月23日（月）～25日（水）

場 所 ①佐賀県唐津市 ポートレースからつ（企業局）  
及び唐津市役所・議会  
②佐賀県佐賀市 NPO法人スチューデント・サポート・  
フェイス（以下SSF） さが若者サポートステーション  
③広島県庁総務局デジタル基盤整備課

### 視察目的の主なテーマ

- ① 事業運営状況、競艇利用者及び一般市民向け施設等
- ② 子ども、若者の自立支援の取組、自治体との連携等
- ③ 情報セキュリティポリシー等

### 視察内容

- ① ・ポートレースのモーニング開催の実態、競艇利用者の観覧席、ロイヤルルームは2階であり、1階はコミュニティエリアとして、一般市民（子どもや高校生なども含む）が利用できる施設が整えられている。フードコート、モービィ（ポートレースあまがさきと同様の親子で遊ぶ室内施設）、有料の貸室として、イベントホールと楽屋、キッチンスタジオ、楽器を備え付けた音楽室、ボルダリング（個人利用は無料）もあった。ポートレースが終わった後に、音楽室利用の高校生や生涯学習の講座を受講する成人などが来訪していた。ブックカフェは図書が並べられており、読書、自習ができる居心地の良い空間であった。ストリートピアノも備えてあり、面積の違いは大きいですが、ポートレースあまがさきでも「コミュニティエリア」は、今後参考になるのではないかと。  
・尼崎のポートレースと同様、SGレースの招致やGⅠ・GⅡの開催、キャッシュレス化を推進し、老朽施設の改修を進めている。また、コロナ禍で令和元年から3年は有料入場者数が減少したが、令和

4年は入場者数が上向いてきている。

・収益金の活用状況として、「響創のまちづくり基金」「公共施設整備基金」に「モーターボート競走事業収益金枠」を設けて、子育て支援や地域住民のためのコミュニティ施設を整備する財源とし、令和3年度では、27.3%が教育費に充てられていた。

② NPO法人SSFについて

・マスコミに谷口仁史代表が度々登場され、また尼崎市でも講演会が行われた有名NPOであるが、今回は、そのNPOのスタッフによる説明を希望し、佐賀市内の商店街にある事務所に出向いた。「どんな境遇の子ども・若者を見捨てない」と、アウトリーチ（訪問支援）と重層的な支援ネットワークを構築している。社会で孤立しない、排除されない若者たちのために、スタッフが500件ほどの相談を受けている状態であるとのこと。「来ることを待つ」対策で、本来、支援が必要な若者たち一障がいやひきこもりなど困難を抱えている子どもと若者への実態やアプローチの実例を知り、意見交換をした。

・「いくしあ」が設立され、児童相談所の開設も近づきつつある尼崎市で、このアウトリーチ型の支援がどのように行われるべきか、民間団体との協働は進むか、など今後の課題としたいと考える。

③ 広島県庁では、外部から任用されている情報専門職の4名が迎えてくださった。広島県ではデジタル戦略監が民間から登用されており、その補佐に、元尼崎市の情報政策担当の幹部が尼崎市を定年退職後、雇用されておられる。また3名は民間から登用または、出向されている。県の情報セキュリティポリシーについて、ご教示いただき、また県から自治体への支援についての実例も学ぶことができた。尼崎市でも今後、ICT、DXの専門職と責任者の登用を進めていくことについて、議員として議論とさらに提案ができるように考えている。

以上